

特集 ボランティアセンター設立 20 周年

本学では創設者 J.C.ヘボンが生涯貫いた精神 “Do for Others” を受け継ぎ、大学公認・非公認、団体・個人を問わずボランティアの意思が存在していたが、ボランティアセンターの設立のきっかけとなったのは、1995 年に発生した阪神・淡路大震災である。このとき、45 人の学生が「ボランティア団」を結成し支援活動に自発的に参加した。この行動がきっかけとなり、1998 年 11 月にまずは横浜キャンパスにボランティアセンターが開設され、紆余曲折を経て設立 20 周年を迎えた。大学組織の一つとして存在するボランティアセンターの活動を、節目の年にさまざまな形で振り返るとともに、行く末を見据えたメッセージを学内外に向けて発信した。

関連行事一覧

○卒業生と現役学生による対談

収録日／会場：2018 年 7 月 27 日（金）／白金 ボランティアセンター

白金通信 496 号（2018 年 10 月号）の特集企画として、センター設立前に阪神・淡路大震災の支援に駆けつけた卒業生とセンター学生メンバーである現役学生による対談を行った。

○パネル展「明治学院大学の学生ボランティア」

開催日／会場：2018 年 9 月 20 日（木）～10 月 20 日（土）／横浜 クララ・ラウンジ

2018 年 11 月 5 日（月）～11 月 21 日（水）／白金 パレットゾーン

ボランティアセンター学生セクションに加え、大学公認団体、実行委員会、およびこれらに所属しない学生団体が “Do for Others” に関わる活動をパネルで紹介した。1 日社会貢献プログラム 1 Day for Others パネル展示も同時開催。

○学生ボランティアフェス

開催日／会場：2018 年 10 月 20 日（土）／横浜 クララ・ラウンジ、911 教室

1 部) 学生によるパネル展示&ブース出展

上述したパネルの展示とともに、ブースで活動紹介、活動地域の名産品を紹介した。

2 部) 公開講座「みんなで生きる - 賀川豊彦とボランティア -」（共催：教養教育センター附属研究所）

初代大学ボランティアセンター長の加山久夫名誉教授にセンター設立までの経緯、本学卒業生である賀川豊彦の活動が明治学院に与えた影響など、社会背景を交えてお話しいただいた。

3 部) トークセッション「ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～」

参加者から受付時に募った「ボランティア活動とは?」「恋愛」等のテーマで議論した。

○朝日教育会議（主催：朝日新聞社、共催：明治学院大学）

開催日／会場：2018 年 12 月 8 日（土）／有楽町朝日ホール

15 大学と朝日新聞社によるシンポジウムとして、高橋源一郎教授による基調講演「『3・11』と大学」、高橋教授とゼミ OG によるトークセッション「ボランティア、って何だっけ?」、パネルディスカッションでは「今、求められる他者とのつながりとは～ “Do for Others（他者への貢献）” の実現のかたちを考える～」をテーマに 4 人のパネラーが “Do for Others” について語った（猪瀬センター長補佐が登壇）。

○20 周年記念冊子『ボランティアセンター 20 年のあゆみ』の発行

20 周年の節目を迎えたボランティアセンターが、学年外の共催を受けながら過去の活動を振り返るとともに、周年行事として行った今年度の活動の軌跡を残すために冊子化した。

設立 20 周年に寄せて

「第三の道」へ

阪神・淡路大震災は大きな被害をもたらしたが、実に多くの日本人が大惨事を目のあたりにして、自分もなにかしたいという、いってもたってもいられない思いを駆り立てました。これはまさしくボランティアの精神的原点であり、この年 1995 年が「ボランティア元年」と呼ばれるようになったのは頷けます。その社会的うねりのなかで、明治学院ボランティアセンターも誕生しました。

阪神・淡路大震災はまた、多くの市民を立ち上がらせ、いわば「市民立法」のかたちで、1998 年、「特定非営利活動促進法」（NPO 法）をこの国に成立させる契機ともなりました。国会議員も超党派的にこれを支援しました。あれから 20 年、いまでは NPO 法人は 6 万を超えると言われています。貧困、家庭崩壊、障がい者、高齢化、地域福祉、災害、環境、国際交流等々、多岐にわたる NPO の働きには実に目覚ましいものがあり、疲弊化しつつあるわが国の社会形成に期待されるどころ大です。そこには、長い歴史と国際的な広がりをもって大きく発展してきた協同組合もまた位置づけられます。協同組合は経済活動をしてはいても、助け合いを目的とする非営利組織にほかなりません。

国や自治体の公的役割がますます重要になってきており、他方、企業もまた社会的貢献がこれまでになく期待されるようになってきました。これらとともに、いわば「第三の道」としてのボランティア・アソシエーションの社会的役割は今後ますます大きなものになってゆくことでしょう。しかし、現実には、大半の NPO は財政的に困難な状況にあり、専従スタッフを擁することすら困難な場合が少なくありません。明治学院大学ボランティアセンターは大学ボランティアセンターとして、広く教職員・学生に呼びかけて、「第三の道」についてともに考える場づくりをしていただきたいものです。

私は、昨秋、明治学院大学公開講座において、「みんなで生きる - 賀川豊彦とボランティア-」と題して、ボランティアセンター 20 周年記念講演をさせていただきました。その際、なぜ賀川が社会改造のために協同組合運動を重視し、これを献身的に実践したかについて述べました。賀川は早くから「第三の道」への先見性をもって、共益組織としての協同組合が果たすべき社会的役割や使命を訴えたのでした。しかし、この点について、NPO 関係者の理解は乏しいし、協同組合関係者の自覚も不十分であるように思われます。では、大学関係者はどうでしょうか。国や自治体および企業とは別に、しかしそれらとも手を携えて、これからますます大きく広がってゆくであろう「第三の道」（第三セクター）の可能性を学際的に探究していただきたいと願っています。それは新たな国家や世界を展望する壮大なヴィジョンであるとともに、ごく身近な人びとのくらしと結びついた、楽しい知的実践的チャレンジになるにちがいないと思います。



(明治学院大学名誉教授/ボランティアセンター初代センター長 加山久夫)

ボランティアセンター20周年を迎え

20周年を迎えるにあたり、ボランティアセンターでは、「学生企画」、「パネル展示」、「ボランティアセンターに関わってきた教職員・卒業生聞き取り」等の活動を行った。

学生企画については、2018年5月に20周年企画実行委員会が立ち上がり、ボランティアセンターの「学生事務局」に所属する学生や、ポートヘボン（学内イントラネット）等での情報をみて応募した学生が参加した。以後、定期的にボランティアセンターの教職員とも会議の場を持ちながら、何のために、何をするのか議論をしていった。その結果、広く一般から参加者を募るという形ではなく、今明治学院大学内でボランティアに関わる学生たちが集い、自分たちが抱えている課題や悩みを自由に語りつつ、ボランティア活動の意味を探っていく方向が見出されていった。そして、10月20日に横浜キャンパスで開催した「ボランティアセンター20周年記念イベント」が企画され、ボランティアセンターの学生セッションだけでなく、学内のボランティアサークル、留学生グループ、MGオリムピック・パラリンピックプロジェクトなどの学生が参加したブース展示、および実行委員会が企画した「学生ボランティアフェス：ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～」を実施した。ボランティアセンターに関わる教職員に加えて、本学卒業生も参加し、活発な交流・議論が展開された。

これと平行し、「ボランティアセンター20周年記念 パネル展」を横浜と白金の両キャンパスで行った。狭義のボランティア団体に留まらず、スポーツや文化活動を行う課外活動団体（クラブ、サークル）が多数参加し活動を紹介するとともに、1 Day for Others で実施されているプログラムの内容が展示され、明治学院大学生がボランティア・スピリッツをもって行う活動の幅広さを学内で共有することができた。その内容は本報告書に掲載されたものをご覧いただきたい。

ボランティアセンターに関わってきた教職員、卒業生への聞き取りは、広報課や教養教育センター付属研究所などの協力を受けながら実施した。まず10月20日に開催した「20周年記念イベント」では、ボランティアセンターの初代センター長である加山久夫先生（本学名誉教授）に「みんなで生きる - 賀川豊彦とボランティア-」と題して講演いただいた。20周年記念イベントに参加した学生も参加し、明治学院のボランティアの先駆者といえる賀川豊彦の精神や、阪神・淡路大震災の際に賀川豊彦記念館（神戸市）を拠点に活動した明治学院大学学生の活動、その延長でボランティアセンターが生まれるまでの過程について学びを深めることができた。加山先生の講演は、教養教育センター付属研究所が企画した2018年度明治学院大学公開講座（横浜キャンパス）の一回としても位置づけられ、地域住民の方も多数参加していた。また、阪神・淡路大震災におけるボランティア活動については、当時その中心として活動した卒業生に対する聞き取りを、ボランティアセンターに関わる教職員、学生メンバーとともに行った。この内容については、広報課の協力のもと『白金通信』に掲載されるとともに、別にまとめた『ボランティアセンター20年のあゆみ』にも聞き取り記録が掲載された。

この一年の実践と議論を通じて、ボランティアセンターは、今ボランティアセンターにかかわる学生だけでなく、まだボランティアセンターにかかわっていない学生、教職員に対しても、彼ら、彼女らがボランティア・スピリッツをもって展開する活動をサポートして行くという方向性が明確になったと考える。2019年度以降、それがどのように可能なのか、そして激動する時代に対して如何に対応できるものになるのか経験と知見を深めていきたい。

（ボランティアセンター長補佐 猪瀬浩平）

ボランティアセンター設立 20 周年記念パネル展示参加団体紹介



明治学院大学の
学生ボランティア

Meiji Gakuin University
Volunteer Center

明治学院大学の学生ボランティアは、
ボランティアセンターの学生メンバーによる活動を中心に、
課外活動団体(サークル)による活動も多数実施されていることが特徴です。
今回はボランティアセンターが把握している活動ではありますが、
各団体の活動を紹介するパネルを作ってみました。
明学生によるボランティアは、他にも行われていると思いますが、
まずその一端をご覧いただければ幸いです。

ボランティアセンター 設立20周年記念パネル展示

「明治学院大学の学生ボランティア」

ボランティアセンターは本年11月に設立20周年を迎えます。

阪神・淡路大震災時の学生たちの自発的な支援活動が誕生のきっかけとなったボランティアセンター。
これまで学生のさまざまな自主的な活動を応援してきました。

また、教育理念“Do for Others (他者への貢献)”の精神は、ボランティアセンターで活動する学生セクションだけでなく、多くのクラブ・サークルに浸透し、多種多様な社会貢献活動が展開されてきています。

この20周年を機に、各団体の活動紹介パネルが一同に会することとなりました。

どうぞ明治学院大学ボランティアの息吹を感じてください。

ボランティアセンター

会期 2018年11月5日(月)～11月21日(水)

参加団体 (順不同)

■クラブ、サークル■
サッカー部、アメリカンフットボール部、ラクロス部男子、児童教育研究会、応援団、落語研究会、愛好会協議会、OPENROOM、ハビタットMGU、手話サークルぼっけ、JUNKO Association、キャンパスコンシェルジュ、戸塚まつり準備会、ハロプロ研究会、MMM(みなとメディアミュージアム)、僕らの夏休みProject、MGオリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会

■ボランティアセンター学生セクション■
横浜地域活動、白金地域活動、海外プログラム事業部、MGパール、明学レッドクロス、「Do For Smile@東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム、「Do For Smile@東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援プログラム

<参加団体>

ボランティアセンター学生セクション

- ・横浜地域活動
- ・白金地域活動
- ・海外プログラム事業部
- ・MGパール
- ・明学レッドクロス
- ・「Do for Smile@東日本」プロジェクト
明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム
- ・「Do for Smile@東日本」プロジェクト
陸前高田復興支援プログラム

体育会

- ・アメリカンフットボール部
- ・サッカー部
- ・ラクロス部男子

文化団体連合会

- ・児童教育研究会

応援団

- ・応援団

愛好会

- ・愛好会協議会
- ・OPENROOM
- ・ハビタットMGU
- ・落語研究会

実行委員会

- ・戸塚まつり準備会

任意団体

- ・手話サークルぼっけ
- ・JUNKO Association

その他

- ・MMM(みなとメディアミュージアム)
- ・MGオリンピック・パラリンピックプロジェクト実行委員会
- ・キャンパスコンシェルジュ
- ・ハロプロ研究会
- ・僕らの夏休み Project

● 横浜地域活動

横浜地域活動

戸塚区を拠点に地域で開催されるイベントの活性化を目指しています！

6月

春のふれあいフリーマーケット

戸塚駅周辺の戸塚原宿の交差点の近くで行います。7月までは子どもたちを対象にしたブースを出します。暑い時期のため、水鉄砲など水を使ったブースも出し、涼しく楽しく活動することができました！子ども達の元気いっしょな姿も見られます！そして、戸塚区のマスコットキャラクターのウナシーにもなれます！



7月

夏祭り・盆踊り

横浜キャンパス近くの小田急分譲地のお祭りに参加します。盆踊りは、地域の方々に教えてもらい、本番に備えて練習します。練習は地域の方や子どもたちと一緒に踊ります。地域の方とお話することができ、とても楽しいです！当日は浴衣を着て地域の方と一緒に踊ったり、屋台のお手伝いを行います。



9月

宿場祭り

戸塚駅前で行います。江戸時代に戸塚が東海道の宿場町だったことにちなんで開催されるお祭りです。多くのブースを出すため、準備は大変ですが、子ども達も元気に元気をもらえます。秋には1年生も活動に慣れ、積極的に子ども達とコミュニケーションを取れるようになります！



10月

秋のふれあいフリーマーケット

6月と同様に戸塚駅周辺の戸塚原宿の交差点の近くで行います。肌寒い季節ですが、たくさんの子も達がブースに来てくれて、私たち子ども達も元気をもらえます。また、2年生にとって最後のイベントのため、思い出深いものとなります。横浜地域活動は活動期間が短いことも、活動のしやすさの一つです。



12月

防災カフェまつり

昨年、横浜地域活動での新たな活動として初めて実施しました。横浜市民防災センターで行います。クリスマスが近いため、防災とクリスマスがコラボしたブースを出しました。そのため、子ども達も楽しく防災について学んでもらえたと思います。また、学生が消防局の方と事前に会議を行えるため、よい社会経験にもなりました！



月に1回

とっとの芽

東戸塚駅の近くにある子育て支援拠点の施設のとっとの芽に月に一回ボランティアに行っています。主に子ども達と遊んだり、絵本の読み聞かせをして楽しんだり活動しています。一緒に未就学児の子どもと遊び、保護者の方との交流会をするなかで子育ての大変さや子育て支援の必要性を感じています。



年間通して

Totsuka Garden

戸塚ガーデンは2017年4月、ボランティアセンターの学生メンバーの5名の企画によりスタートしました。多くの人に野菜作りを通して「食」をもっと身近に感じてもらうことを目的としています。ボランティアセンターの緑の館スペースに夏はパプリカ、トマト、ナスを、冬はほうろく草やラベンダーなどを栽培しています。土を耕すことから収穫、できた野菜の調理・試食まで楽しみながら経験しています！



横浜地域活動の詳細

準備もイベント当日も楽しい！

学内活動日：週に1度 お昼休み

学外活動：1年に約5つのイベントと月に一度のとっとの芽(自由参加)、戸塚ガーデン

魅力：お年寄りの方から子どもまで、様々な世代の方と交流できる！

子どもたちの笑顔が見れる！地域の活性化に貢献できる！友達が増える！

自分の好きなペースで活動に参加できる！（とっとのメンバーがサポートしています）

● 白金地域活動

白金地域活動

ふれあい運動会

白金キャンパスの近くにある白金小学校で、ふれあい運動会のお手伝いを行いました。ふれあい運動会とは、幅広い世代の地域の方々が参加する運動会です。地域の方々が楽しめるように、自分たちも楽しみながらお手伝いしました。



NEC 意見交換会

チャンスフォー・チルドレンの方にお話を伺い、子ども達の貧困の現状や問題点を知り、その上で自分達にどのようなことができるのかについて NEC の方々と一緒に意見を交換しながら考え、理解を深めました。



ワンパクまつり

白金台児童館主催のお祭りブースに参加しました。「ベイトボールボウリング」が魚釣り企画し、景品としてバルーンアートを選ばしました。夏休みからバルーンアートの練習、ボウリング練習や釣りざお、魚を手作りで準備して10月の本番に備えました。当日は300人の子もたちが楽しんでくれました。



ミーティング

毎週1回お昼休みに白金・横浜合同テレビ会議を行っています。活動の振り返りや意見を出し合い、情報共有するように心がけています。放課後ミーティングも月に一度のペースで行っています。



年間スケジュール

4月 ふれあい運動会 (場所: 白金小学校)

白金地域の全町内会、自治会と白金小学校教員・PTA の方々が協力して、毎年行われている。セクションメンバーは、運動会の準備、司会、ラジオ体操の指導、競技のデモンストレーション、後片付けなどを行う。運動会後には、運営に携わった方々との懇親会がある。

6~8月 マップ作り

白金キャンパス周辺を明学生に知ってもらう目的で、マップを作成。セクションメンバー自ら歩いて学校周辺から最寄駅までを散策し、地域の知見を広めると共に、マップ掲載の材料を集める。

8~9月 ワンパクまつり準備

秋に目黒駅近くのどんぐり公園で行われる「ワンパクまつり」に企画から加わりたく白金台児童館にお願いし、子ども向けブース用にテント2つを任されている。夏休み期間を利用し、主に白金キャンパスにて、備品作成および景品にするバルーンアートの練習を行う。また、白金台児童館での学童補助の活動も予定している。

9月 ワンパクまつり (白金台児童館主催)

「ワンパクまつり」当日は、開始時間までまつり全体の準備もお手伝いする。白金地域セクションの子ども向けブースでは、手作りゲーム2種類を出店し、景品としてバルーンアートをプレゼントする。

10月 以降

これまでの経験を踏まえ、メンバーが興味あることの新企画実現に向けた活動を予定。みなと区民まつりに参加予定。学生セクション報告会での活動報告。

白金地域活動では
“学生たちがやりたいことをイチから考える”ことを
大切にしています！

● 海外プログラム事業部

海外プログラム事業部の、 明学ボランティアセンターの、



こんにちは、明学へようこそ。
私たちは、"Less than nothing, step forward" 世界を変える企画を作ろう
とをキャッチコピーとして活動しています。

格差、ジェンダー、食糧問題を柱として世界の諸問題を目標に向けて、その問題解決のために自分たちができることを0から企画しています。個性豊かで楽しいメンバーと一緒に世界をより良くするお手伝いをしませんか。

海外プログラム事業部 年間スケジュール

4月	5月27・28日 ペットボトルキャップ回収活動@戸塚まつり 集めたペットボトルキャップは途上国の子どものためのワクチンへと変わります。戸塚まつりではキャップを寄付してくれた方にお菓子をプレゼント！2日間で6864個キャップが集まりました！！
5月	
6月	7月5日 大正地区センターで小・中学生に向けてイベント 小学生には食の大切さを、中学生にはジェンダーの問題を伝えるワークショップを行いました！近隣の小中学校に事前に告知に行ったりもしました。
7月	
8月	9月(約7日間) 海外ボランティアツアー 2014年はバングラデシュ、2015年はスリランカ、2016年はタイへ訪問しました。「その国で何を学びたいのか」、国やテーマを決めて0から自分たちで行い、2018年度はタイ・ミラー郡に行く予定です。
9月	
10月	10月11日 国際ガールズデー 国連で定められた世界の女の子の問題を考える日。世界には「女の子」というだけで学校に行けないような子がたくさんいます。この問題を啓発するために、Twitter や図書館などで紹介しています。
11月	
12月	
1月	ユニクロ衣料回収プロジェクト 2月11日、12日にユニクロ東急プラザ戸塚店「衣料回収プロジェクト 難民に生きる服を。」ボランティアとして参加しました。事後学習の一貫として夏休みにユニクロを展開しているファーストリテイリング社のサスティナビリティ部の方にお越し頂き、講演会を実施しました。
2月	
3月	

※他にもここに書ききれなかった企画はたくさんあります！詳しくは学生メンバーにお尋ねください。

● MG パール

ボルネオ島について

東南アジアに浮かぶ世界で3番目に大きな島。
そこには地上の生物種の70%が生息するとされています。
しかし、それらの野生動物の住処である森林は急激に減少しています。
その原因は油ヤシのプランテーションです。
油ヤシからは私たちの生活に必要不可欠なパーム油が採取できます。
そのため、森林伐採が進み住処を失った動物は絶滅の危機にあります。

MG パール 普段の活動内容

MG パールの活動は、制作・販売・寄付とボルネオ島についての勉強会の二本柱から成り立っています。
普段は週一回、横浜・白金校舎でアクセサリーの制作を行っています！
活動日時は学期ごとにメンバーで相談して決めています。
また、横浜校舎にある生協にて5月～7月、9月～12月の期間でアクセサリー販売も行っています。

年間イベントスケジュール

- 4月 新入生説明会 & 制作体験・新入生歓迎会
- 5月 戸塚まつり出店
- 6月 キャンدلナイト出店
1Day「オランウータンから学ぼう！ボルネオ島の環境問題」
- 8月 オープンキャンパス
- 9月 合宿
- 11月 白金祭出店
- 12月 キャンدلナイト出店
- 3月 観覧会出店 オープンキャンパス
- その他 不定期にてBCTJ月例会参加

活動情報は twitter @MgPearlBorneo まで！
MG パールで検索してください！

MG パール

MG パールとは・・・

非営利団体ボルネオ保全トラストジャパン (BCTJ) と協力し、東南アジアにあるボルネオ島の森林保全活動を行っているボランティア団体です。
森林伐採によって分断されたボルネオ島をつなぎ、野生動物の絶滅を防ぐために、ボルネオ島産の淡水パールを使用したオリジナルのアクセサリーを制作、販売し、売上げの半分をボルネオ保全トラストジャパンに寄付し、半分を制作費に日々活動しています。

BCTJ が現地でボルネオ産の淡水パールを購入する。

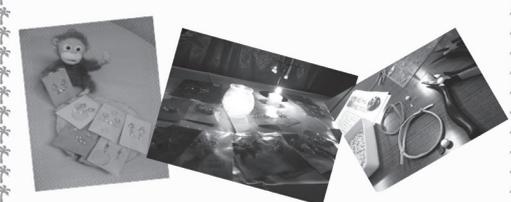
淡水パールを BCTJ より MG パールが買い取る。

MG パールがアクセサリーを制作し、販売する。

売上げの半分を BCTJ に寄付し 保全活動に役立てていただく。

活動目的

- ☆森林伐採により分断されたボルネオ島の森で、野生のオランウータンが自由に移動し、繁殖できるように森をつなぐこと。
- ☆BCTJ「緑の回路プロジェクト」への寄付 → 寄付金を現地の森林や動物保護に役立ててもらおう。
- ☆アクセサリーを通してボルネオ島の現状を多くの人に伝え、身近な問題であると感じてもらおう。



● 明学レッドクロス

+ 明学レッドクロス +

+ 献血推進活動 +



年2回白金キャンパス内で献血の呼びかけ活動を行っています。学内での献血者が減少していることから、魅力ある都内の献血ルームを紹介するリーフレットを作成。時間がなく学内献血できない学生に配付し、学外での献血を促しました。

+ 日本赤十字社本社見学 +



日本赤十字社本社(大門)を見学し、赤十字奉仕団のボランティアガイドから日本赤十字社の歴史や活動内容を学びました。

+ 炊き出し訓練への参加 +



白金キャンパス近くの港区高松地区で実施される「防災炊き出し訓練」に参加。非常食のアルファ米(白米)と豚汁作りを体験しました。経験を積むほど、実感を立っことを体感しました。

+ 横浜図書館展示 +



学生たちに赤十字社の活動を理解してもらうために、関連図書を選定し、分担して読んだ後、紹介ポップを作成して展示しました。

+ 明学レッドクロス 活動内容 +

【ミーティング】

- ★ 隔週月曜日または木曜日昼休み 白金・横浜テレビ会議室またはボラセン内で iPad 使用
- ★ 行事の前には、必要に応じて臨時ミーティングを開く予定

【大学内活動】

- ★ 4月・10月：献血呼びかけ
 - 白金校舎パレットゾーン前に献血車が入構し、学生たちに献血を促す。
 - 2017年度は、献血の呼びかけ促進のため、特色ある献血ルームを紹介するリーフレットを作成し、献血当日時間が取れない学生に配付し、献血ルームでの献血をお願いした。
- ★ 夏休み：日本赤十字社見学
 - 赤十字情報プラザ(資料コーナー)、看護倉庫、7階特別会議室・貴賓室を見学。
- ★ 夏休み：東京都赤十字献血センター見学
 - 献血された血液が、どのような手順で病院等に運ばれるかを学ぶ。
- ★ 秋学期：図書館展示(横浜校舎)
 - 学生たちに赤十字社活動を理解してもらうために、関連する本を展示。
 - 本を選定後、分担して読み、それぞれの本に紹介ポップを作成する。これにより、赤十字社活動に興味を持ってもらい、本を読んで少しでも理解を深めてもらうきっかけになることを願う。

【地域活動】

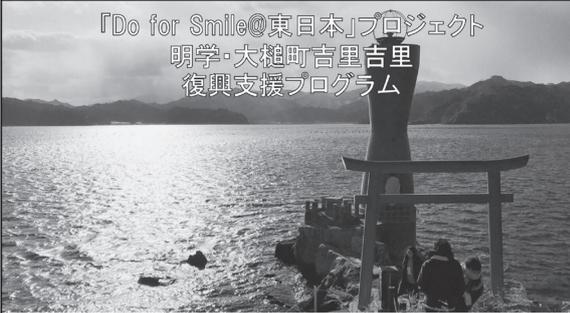
- ★ 10月：港区高松地区防災炊き出し訓練

【日本赤十字社からのボランティア募集依頼】

- ★ スマイルチルドレンプロジェクト(2017年度5名参加)
 - 子どもの貧困をテーマとし、香港ユースと協働している。日本ユースはNPO法人キッズドアと連携し生活困窮者の子どもたちに学習支援を行っている。
- ★ RCV(ボランティア情報誌)編集委員(2018年度4名参加)
 - 赤十字のボランティア活動等を取材編集し、全国へ伝える。
- ★ 全国赤十字大会(2018年度1名参加)
 - 当日は会場案内や資料配布など運営スタッフとして参加。
- ★ 災害時の連携を考える全国フォーラム(2017年度2名参加)
 - 全国から約300人が集まる一大イベント。ボランティアとして会場整理や誘導などを行った後は、分科会での学びに参加。
- ★ 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンにかかるボランティア(3名程度募集)
 - 8月上旬の顔合せから始まり、グローバルフェスタ JAPAN、赤十字シンポジウム等の展示企画の立案、準備、当日運営スタッフを担当。12月は募金活動に参加。

● 「Do for Smile @東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム

「Do for Smile@東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里 復興支援プログラム



本プログラムの柱となる4つの活動

わんぱく広場
小学生を対象に、運動遊びを通して体を一緒に動かしたり、ミサンガやスタンプ作りなどの創作活動を明学生と行います。長期休暇中には宿題を見ることがあります。子どもたちの元気な姿に、いつもパワーをもらえます。

学習支援
中学生を対象に、授業サポートや長期休暇中の課題のお手伝いをしています。「きりきりじゅく」と題し、学習面のみならず、中学生と私たちの交流も視野に入れた、新たな活動を考えています。

ふるさと科
小学3年生の授業に、明学生がお手伝いさせていただいています。郷土愛を育み、次世代へ豊かな自然や文化をつなぐための取り組みとして、震災後に大槌町が導入した科目です。明学生が作った「吉里吉里カルタ」を用いています。

スタディツアー
新たにメンバーとなった明学生を対象に、毎年6月に行っています。地域の方のお話を聞いて、震災や地域について学ぶことと同時に、自分たちの今後の活動も考える時間と合わせています。また、吉里吉里の良いところを上級生から新入生へ伝える場ともなっています。

地域に密着した活動は他にもたくさん!

吉里小運動会
5月に吉里吉里学園小学部にて行われる。運動会のお手伝いをさせていただいています。明学生は準備と片付けの他、当日の先生の補佐や録画などを行い、時に競技にも参加させてもらっています。子どもたちの一生懸命な姿を近くで見られる活動の一つです。

サマースクール
毎年夏に吉里吉里学園小学部にて行われている活動。明学生も夏季休暇を利用して、参加しています。基本はわんぱく広場と同じですが、夏休みならではのアークと一緒に入ったり、子どもたちの宿題のお手伝いをしたりしています。

お祭り(天照御泊神社例大祭)
毎年8月の第4週の土日に開催される例大祭。吉里吉里には、「大槌祭」「龍子踊り」「倉舞」の3つの郷土芸能があり、それぞれの団体の迫力ある舞と神輿の力強さが感じられる。1年中最も暑い2日間です。明学生は現在、自主活動として団体に参加しており、この日は卒業生も多く再会できる日ともなっています。

吉里吉里大運動会
10月に吉里吉里地区の住民皆で行う運動会のこと。「天婦羅」など吉里吉里地区ならではの競技もあり、大変盛り上がる一日です。明学生も競技を企画、運営に関わらせていただいています。多くの地域の方と交流し、お話を聞ける活動でもあります。

吉里っ子文化祭
10月に小学生が日ごろから練習をしてきた歌や伝統芸能を、地域の方に向けて発表する場。明学生は、わんぱく広場に参加した学生を中心に、自主活動として見学に行っています。先生方や地域の方との交流の機会としても生かされています。

Twitterでも活動の情報を発信しています!

吉里吉里 @DIS_Otsuchi



「吉里吉里や よいところぞう おいでんせ!」

● 「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援プログラム

「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援プログラム 活動概要

【活動概要】
震災の翌年(2012年)、関東圏などの小学生を対象にした陸前高田へのスタディツアーを企画するセクションとして発足しました。
現在は、陸前高田市内の地域のイベントでのボランティアや、市内の子ども向けの活動、またキャンパスのある地域での防災イベントでの情報発信などに取り組んでいます。

【活動目的】
震災の陸前高田での被害や復興の現状などを外部に伝え、震災の風化を防ぎ、自分たちの地域でも防災・震災にとりくむ。
陸前高田の魅力や魅力を発信する。
陸前高田の方々と交流を通じて、陸前高田に笑顔を増やす

【活動内容】
2011年～2015年「かわい子には旅をさせよ」(かわたび、※1)実施
2016年～ 地域イベントでの「お花七まつり」「うごく七まつり」/けんか七まつり参加、市内小学生向けの工作イベントなどの陸前高田市での活動に「かわ、関東圏での防災イベントでも活動中

※1【かわたび(かわい子には旅をさせよ)プロジェクト】
関東圏などの小学校高学年の子ども達を対象にしたスタディツアー。陸前高田を訪れ、地震や津波の恐ろしさを知って防災意識を高めてもらうことと、陸前高田での人のあたたかさ、陸前高田を忘れずまた来たいと思ってもらうことを目的に実施しました。

【チーム構成】
陸前高田での年4～5回の活動に加え、キャンパス内や関東で陸前高田の様子を伝えたり、防災関連のイベントを行っています。普段は月に一度の全体ミーティングと3つのチームに活動しています。

食チーム:
陸前高田の郷土料理など“食”を通して魅力を発信し、興味・関心を持ってもらうことと、陸前高田を身近に感じてもらい、東日本大震災の風化を防ぐ。

賑(にぎ)りチーム:
現地を訪れ、私達学生メンバーと現地の方々の交流を目的に活動し、陸前高田に笑顔を増やす。

伝(つた)えチーム:
陸前高田の復興の現状と、陸前高田の魅力若者に発信することを目的に活動!

全体ミーティングのようす

Twitterにて活動を発信しています。
@DIS_Takata
ここをチェックしてください!!
問い合わせ、ミーティング見学会など、気軽にDMください。

「Do for smile @東日本」プロジェクト陸前高田 年間行事

5月 明治学院大学防災訓練 戸塚祭り
Do for smile@東日本プロジェクト陸前高田チームが陸前高田で学んだ震災の教訓を、関東での震災に備えた学生たちに向けてもらうために活動しました。

戸塚祭りとは横浜キャンパスで開催される学園祭で、環境、福祉、国際を柱に行われています。私たちは陸前高田の郷土料理「ひつつみ」を作り、多くの方に食べていただきました。

6月 新入生スタディツアー
「震災を知る」、「今の陸前高田を知る」を目的として、新入生を対象にスタディツアーを行いました。

陸前高田の子育て支援施設で開催される夕涼み会で明学生が持ち込み企画のお花け屋敷で子供たちと触れ合いました。

7月 きらりんキッズ夕涼み会

8月 七夕まつり
けんか七、うごく七夕祭りの伝統ある二つの祭りに参加し、お手伝いを行いました。

11月 白金祭 たかた子どもキャンパス
白金校舎で開催されるもう一つの学園祭、白金祭では、陸前高田の味噌を使用した玉こんにゃくを販売しました。

週末などに子どもたちの学習支援や文化活動を通して専ら健やかに育まれることを目的としているプログラムです。今回は、子どもたちと一緒に工作し、普段生活している中で感じていることを見つめることを目的としました。また他大学の活動に参加することで、今後の活動に活かすための活動でした。

同じ岩手県で活動しているチーム同士でお互いの地域や活動内容を学びました。

2月 吉里吉里、陸前高田合同スタディツアー たかた子どもキャンパス
地元の子供たちと明学生がバリエーションと一緒に作り交流を深めました。

3月 大学シンポジウム
私達と同じ現地以外の者として活動する他大学の学生と交流し、私達が今後、高田のために活動をするために大切なことを改めて学ぶようにつなぐことができました。

● アメリカンフットボール部



アメリカンフットボール部
SAINTS

★ボランティア活動の内容

SAINTSでは、現在、主にスポGOMIのボランティア活動を行っています。
 スポ GOMIではアメフト部が主催し、戸塚の町内会の方々や、リトルセインツ、ラクロス部をはじめとした他部活と、幅広い世代で、ボランティア活動を行っています。
 スポGOMIは、スポーツ競技として楽しみながらキャンパス周辺のごみ拾いをするイベントで、SAINTSの学生は運営を手伝っています。
 毎年 200 名もの人が参加しています。
 区民や、明学生、リトルセインツとの交流を深めながら街を綺麗にしています。




★ボランティア活動通じて成長していると感じた点

地域の方々や、他部活の方など、多くの方々に応援してもらえることは、チームの成長にも繋がります。
 ボランティア活動を通して、部員一人一人の練習に対する姿勢が大きく変わりました。



★ボランティア活動を通じて社会や大学と繋がったと感じた点

ボランティア活動を通じて地域の方々や交流する
 良い機会となり、その後、学校内でお会いした際に、SAINTSについて聞かれることもあったので、以前よりは関心を持ってもらっているのだと実感しました。



★ボランティア活動を行い良かったと感じる点

町内会の方々や、他部活との交流を深めることができ、アメリカンフットボールというスポーツを知ってもらえる良い機会となりました。

今年も7月に
スポGOMI開催
予定なので
参加お待ちしております★

★今後について

SAINTSでは、今後もこのようなボランティア活動を行っていきたくて考えています。
 そして、スポGOMIでは、活動の幅を広げもっと多くの明学生が参加してもらえたら良いと思います。
 ボランティア活動を通じ、より多くの地域の方、明学生、学校関係者に応援してもらえようなチームにしていきたいです。

SAINTS 活動内容・年間スケジュール

1月	・自主練習期間	
2月	・トレーニング期間	
3月	・トレーニング期間	
4月	・勧誘期間 ・【オープン戦開幕】青山学院大学定期戦	
5月	・【関西遠征】近畿大学定期戦	
6月	・SAINTSカーニバル	
7月	・スポGOMI ・自主練習期間	
8月	・夏合宿	
9月	・【秋リーグ戦開幕】	
10月	・秋リーグ戦	
11月	・秋リーグ戦	
12月	・入れ替え戦 ・総会 ・シーズンオフ	

SAINTS は、週 4 日一部昇格に向けて日々練習しています！
 プレイヤー、スタッフ募集中です！

● サッカー部

明治学院大学体育会サッカー部

クラブプロフィール

我々サッカー部は1961年に創部されました。現在は東京都大学サッカーリーグ1部に所属しており、関東リーグ昇格を目標に日々トレーニングを重ねています。部員が約200人所属しているためカテゴリーに分かれて「リーグ」や「東京都社会人リーグ」などに出場しています。サッカーを通じて、人と成長することを目標にしています。

【昨年の主な成績】
東京都大学サッカーリーグ1部 優勝
関東大会出場

部員
リーグ
リーグ
東京大学
サッカー部

旧ユニフォーム寄付

当サッカー部の前監督の友人のセネガル人サッカー選手を通じて彼の故郷である「Thies ティエスFC」に寄付しました。

ThiesFCは、首都のあるダカール州の隣の州で、州都のティエスは、セネガルで4番目に大きな都市で、人口は横浜市の1/10くらいです。

15〜18歳のユースチーム
19〜35歳の社会人チーム

2017年寄付

旧ユニフォームは2016年まで公式戦で使用していました。

ThiesFCには16歳から35歳の50名程のメンバーが所属しています。ThiesFCから地元や海外のチームでプロになる選手もいるそうです。

少年サッカー大会開催

「少年サッカー大会」と「サッカークリニック」をヘブバーンで開催しました。当日は小学生5チームをお招きして交流戦を行いました。部員も会場設営や審判、そしてサッカークリニックで大活躍してくれました。小学生の楽しそうにサッカーをする様子を見た部員たちは「サッカーを楽しむということ再認識できた」と感じています。

主な年間スケジュール

- 2月 シーズン始動・合宿
- 3月 アメフトインターカップ選手選
- 4月 東京都大学サッカーリーグ開幕
- 5月 リーグ開幕
- 7月 アメフトインターカップ
- 8月 合宿
- 10月 東京都大学サッカーリーグ開幕
- 11月 関東大会(関東リーグ昇格戦)
- 12月 新人戦

【ボランティア活動を通じて】

サッカーを通じて、国境・年齢を超えて多くの繋がりが感じられました。今後も少年サッカー大会の拡充や他の年代とのサッカー交流、地域貢献・交流をする機会を増やしていきたいと考えています。何か協力して欲しいことありましたら、ご連絡ください。

そして、皆様から応援されるチームを目指していきます。

キーパー・マネージャー募集中!!

やる気に満ち溢れていて、サッカーが好きなお待ちしております!!
mailto:1961@hepburns.jp
までご連絡ください。
<http://mau-soccer.club/index.html>
サッカー部ホームページ

● ラクロス部男子

HEPBURNS LACROSSE

スポ GOMI

毎年アメリカンフットボール部主催の、横浜キャンパスとその周辺地域のごみ拾いに参加しています！「ゴミ拾いはスポーツだ！」を合言葉にグループごとに分かれて対戦形式のごみ拾いを行い、楽しみながら地域をきれいにすることができました！！

3位を受賞しました！

戸塚の町をきれいにできました！

八幡神社の祭礼・余興

戸塚区下倉田町にて行われた、八幡神社のお神輿担ぎに参加しました。地域の方々と楽しく元気に神輿を担いできました！地域の方々からもまた参加してほしいとお声掛けをいただきました。

ほかに、

- ・熊本地震の際に明学のボランティアサークルと共同募金活動
- ・明治学院大学生協に募金箱を設置

などのボランティア活動にも積極的に参加しています！！これらのボランティア活動を通して小さなことから自分たちが地域に貢献できることはあると言うことがわかりました。これからも様々な活動に参加していきたいと思っています！

2018 Suchedule !

4月	新入生勧誘
5月	あすなるカップ(2年生大会)
6月・7月	アメフト部主催 スポ GOMI !
8月	夏合宿
9月 10月	リーグ戦! ぜひ応援に来て下さい!!
12月	ウィンターステージ(1年生大会)
2月	SPリーグ
3月	卒業式

現在ラクロス部男子は部員数約100名の大きな団体となりました！今年は一歩昇格に向けて部員全員で、一丸となり日々練習に取り組んでいます！また、リーグ戦はヘボンフィールドでも行われますので、ぜひ応援に来て下さい!! ★

● 児童教育研究会

明治学院大学文化団体連合会 児童教育研究会

～団体紹介～
児童教育研究会は明治学院大学の文化団体連合会に所属しています。現在**新3年生5人、新2年生7人の合計12人**で活動しています。主に戸塚キャンパスで、毎週水、土曜日に活動している。文化団体連合会に所属する大学公認サークルです！毎月1～2回地域の小学生を校舎に呼んで、私たちが考えたオリジナルのゲームで遊んだり、春には遠足、夏には2泊3日のサマーキャンプがあったりと、子どもにとっても私たちににとっても楽しいイベントが沢山あります。先輩後輩関係なく子どもたちに楽しんでもらうためにアイデアを出し合い、少人数で和気あいあい、楽しく活動しています。子どもが好きな人は男女問わず大歓迎です。笑顔沢山の部員たちがみなさんをお待ちしています！！

年間で行っている活動は大きく分けて4つに分かれています。
☆土曜学校 **年8回**ほど横浜校舎に子どもたちを招いて、学生間で考えたゲームを行い、遊ぶ活動です！
☆子ども会活動 **年5回**ほど各地域に出向き児童館や体育館をお借りして、子どもと遊ぶ活動を行っています！
☆遠足 **毎年4月末**に晴天時は公園、雨天時は遊ぶ施設などに遠足に行きます！
☆サマーキャンプ **毎年8月中旬**に2泊3日のキャンプを行います！

～活動で力を入れている～
★「手作りのものを子どもたちに届ける」ということです。私たちが考えるゲームで使う遊び道具はもちろんです。子どもと関わる時間や、思い出といった実際に関わるからこそ作られるものを子どもたちに届けることを意識しています！！

★「子どもの立場、視点に立つ」ということです。私たちが活動で重要視しているものとして、子どももいかに楽しんでもらうかという立を掲げています。その為には「子どもの視点に立つ」楽しさ、安全面等を確認しながら活動を行うことがおのずと求められます。

～活動を通して様々な点での成長～
・子どもと接したことを通じて、相手のことを考え、わかりやすく伝えることを意識するようになったため、物事の伝達能力が上がった！
・様々な物事への瞬時の対応力や物事を観察する上での洞察力が上がった！
・相手の目線に立つ、子どもの目線に立つて考えることが増えた！
・子どもと接する際に、あえて厳しく接することも子どもの安全や危機察知の為には大事であることを知ることが出来た！

～活動から良かった感じる点～

- ・子どもと関わるうえで配慮をすべきことを考え、行動に移すことが、出来るようになったこと。
- ・普段、大学生活を行っているだけでは接する機会のない、子どもたちと関わる機会をたくさん持つことが出来、仲良くなる事が出来たこと。
- ・活動の中には、活動を行うための準備など大変なこともあるが、そういった忙しさの中に、楽しさを見出すことが出来ている点。
- ・自分が活動を休んだ時、「今日は来ないの？」と子どもが聞いてくれたという話を他の学生から聞いた時。

～活動を通して社会(地域)や大学との繋がり～

子どもたちから「楽しかったよ！ありがとう！」という声をもらったり、保護者の皆様から「子どもたちが楽しく帰ってきました、いつもありがとうございます！」といった声をいただいたり、大学の授業を終え家に帰る際に、活動に来てくれている子どもたちから、大きな声であいさつをしてくれたり、話しかけてくれる機会が出来ました。

私たちは活動を通じて「子どもの視点に立つ」ことを意識するようになりました。しかし実際は、社会には子どもだけでなく多くの方が生活しています。私たち大学生は、卒業と同時に社会に入る人がほとんどです。社会に出た際に、一人ひとりに合わせた配慮や、相手の視点に立つて行動することや、社会に今ある問題を自分ならどう改善していくことが出来るのか、を考え行動することといった、「共同」の意識が大切だと考えています。私たちは活動を通じて、これらの考えを深め、社会に出た際に自分の力で生かせるように取り組んでいます。

～今後の活動～

活動自体には大きな変更等は考えていません。しかし、その分野びや子どものかかわりの質を、今以上に高めることで、子どもにより楽しんでもらえるような活動を目指していきたい、と考えています！！

～メッセージ～

私たちは普段活動を行う中で、戸塚キャンパス近隣に住む子どもたちと関わっています。また、活動を通して保護者の皆様や地域の方と交流する機会もあります。これらの機会はただ大学生として学生生活を送っているだけでは経験することは多くないと思います。また、子どもたち一人ひとりに個性があり、活動を通じて子どもたちらしさに触れる機会が多いのも当サークルの特徴です。

● 応援団

明治学院大学応援団

明治学院大学応援団はリーダー部、チアリーディング部、プラスバンド部の3部で活動しています！毎年10月・11月にチャリティーショー「白金の集い」というチャリティーイベントを開催し、収益は障がい者スポーツ協会とあしなが育英会に寄付しています。

体育会の応援や学内外のイベントにも参加させて頂いています！

◎学内イベント ◎体育会の応援

◎チャリティーショー「白金の集い」開催

毎年10月・11月にチャリティーショー「白金の集い」というチャリティーイベントを開催し、収益は障がい者スポーツ協会とあしなが育英会に寄付しています。

◎チャリティーを開催して、社会と繋がったと感じた点

寄付活動を通じて、2/26に虎ノ門ヒルズで行われました。パリンピック冬季競技大会日本代表結団式・社行会にて演舞を致しました！日本選手団の方々へ直接エールを送らせて頂きました！！

◎応援団に所属して、成長したと感じる点

責任を持った行動がとれる様になったことです！団員1人1人の行動が応援団に何らかの影響を与えます。責任は大きいですが、団員1人1人が欠かせない存在です！

● 愛好会協議会

明治学院大学公認団体

愛好会



私たち愛好会は大学から公認を受けている学生団体です。スポーツ・旅行・音楽・学術文化の4系統に分かれた、30の部・サークルで構成され、約1000人もの会員が各々の目標に向かい日々活動しています。

活動内容

愛好会は日本赤十字社様と連携し、横浜キャンパスにて年に数回献血活動を行っています。
献血活動には毎年多くの学生に協力してもらい、有意義な献血活動になるよう努めています

ボランティアを通して気づき

献血を必要としている方が多くいることに気づかされ、熱心に取り組んでいます。

メッセージ

愛好会は様々な部・サークルの横のつながりが強いことが愛好会の最大の強みです。4年間という短い大学生活で多くの仲間と時間を共有したい方は是非一緒に楽しい大学生活を作ってください。

● OPENROOM

ボランティアサークル OPENROOM



OPENROOMは、「これ」という枠に縛られず、幅広いボランティア活動を行っているサークルです。
メインの活動としては障害児者支援を行っています。

東京都立青島特別支援学校

東京都立青島特別支援学校は東京都世田谷区にあり、世田谷区に住み中学校を卒業した知的障害のある方のための学校です。OPENROOMは、在校生や卒業生の行事にボランティアとして参加させて頂いていただきました。

★クリスマス会★
クリスマス会では、スポーツ班、調理班、ミュージック班に分かれて活動しました。スポーツ班ではサッカーをして、私たちが試合に混ぜていただきました。調理班では、ケーキの飾りつけのお手伝いしました。ミュージック班では、クリスマスに関する歌を練習して発表しました。またビンゴ大会もあり、生徒さんの補助をしました。生徒さんとたくさん関わることができました。

<http://www.seicho-sh.metro.tokyo.jp/site/zen/>

すくすくのびのび園

すくすくのびのび園は、目黒区にある児童発達支援センターであり、就学前の幼児を対象に療育を行うほか、施設が持つ専門機能を活かしながら、18歳までの発達に支援の必要なお子さんや障害を持つお父さん、そのご家族への相談支援、地域の施設への援助・助言を行っています。私たちは、保護者の方の懸念がある時などに、子どもたちと過ごすボランティアをしました。自分が担当する子どもに付いて一緒に歌を歌ったり、ボールプールなどで遊んだりしました。子どもたちが怪我をしないように見守ったり、時間やルールを守って行動できるようにサポートしました。

http://www.city.meguro.tokyo.jp/shisetsu/shisetsu/fukushi_shisetsu/sukusukunobinobie.n.html



合宿



毎年夏にメンバーの親睦を深めるため合宿に行っています。昨年は栃木県に行き、観光や夜にはバーベキューをして楽しく過ごしました。普段はメンバー全員で行うような活動がないので、このような環境でたくさん話すことができることは、とても良い機会だと思っています。また、春休みには都内から離れた所でボランティアを行うために、合宿を行います。昨年は実行することができなかったのですが、ゴミ拾いなどに参加させていただく形で、ボランティアをしに行っています。今回合宿ができなかったことの反省を生かし、今後は実行していきたいと考えています。

部会

毎月1回休み、各キャンパスごとに話し合う場として、部会を行っています。日にはメンバーの予定を重視し、曜日の固定などはせず、参加者が多い日にしています。堅苦しくなく、話しやすい雰囲気作りを大切にしています！月に1回なので、あまり負担なく参加することができます。また、毎月1回放課後にご飯会も行っています。そこではキャンパス関係なくメンバーが顔を合わせることができるので、先輩たちとの交流にもなります。

ボランティアの感想

ボランティアを行うことで地域の施設に貢献できる所が良かったと思います。また、異なる年代の人と関われるようにもなりました。

特別支援学級のボランティアに行ったのですが、考え方や理解力が一人一人違うことや、そこからどのようにアプローチしていけばよいのかということや、学ぶことができました。また、長く続けていく中で、子どもの成長を実感したほか、より深い信頼関係も生まれ、様々なことを体験させていただきました。

ボランティアを始めた理由は達成感を得るためです。自分が他の人に役立っているという実感はお金では得られないもので、自分に自信を持つことができました！他人のために動くことで自分も成長できるOPENROOMに是非参加してみてください！



● ハビタット MGU



国際ボランティアサークル
HabitatMGU

HabitatMGU は住居貧困問題に直面している世界約80か国で住居建築支援を行う団体
Habitat for Humanity の学生支部です。

HabitatMGUの活動内容

- ・GV (Global Village)    
主に住居貧困問題に直面している国に行き、住居の建築作業を行うプログラム。
過去には、ポーランド・タイ・インド・カンボジアを訪れました。
- ・JV (Japan Village)  
国内支援に重点を置いたプログラム。過去には東北に行きコミュニティ支援を行いました。

その他ごみ拾い、フリーマーケットやシェルター支援など、地域に密着したボランティア活動も行っています。

Habitat for Humanityの活動理念



それは・・・
A world where everyone has a decent place to live
誰もがきちんとした場所で暮らせる世界



世界には、まだまだきちんとした場所で生活を送れない人がたくさんいます。その住居貧困問題を、少しでも解決するきっかけになればという思いで活動しています。

ボランティアを通して

- ・ ボランティアをする前にはまずは仲間が助け合うべき
- ・ 支援を受け入れる側にも負担が伴う
- ・ 日常に対しての自分の視野が広がる
- ・ 捉え方、考え方の違いを理解し受け入れようとする努力



ボランティア活動を行って良かったと感じる点

今の生活がいかに恵まれているかを改めて知りました。また、“家”というものが私たちにとってどのような存在なのか、いかに大切なのかを考えさせられました。そして、幸せとは何か、もう一度考え直させられました。



ボランティア活動を通じてメッセージ (社会や勇学生などに向けて)

世界には私たちが想像もできないような現実がたくさんあると思います。それらに一度目を向けることがとても大切なことなのではないかと思えます。また、ボランティア活動は自分の生き方を見つめ直す良い機会にもなると思えます。



これから展開してみたいボランティア

現在ハビタット MGU では“Big GV”を計画中です。Big GV とはこの夏にタイで行われる予定の、家ではなく“図書館”の建設を目的とした派遣のことです。これに伴い、日本全国から図書を集める予定です。

● 落語研究会

落語研究会



ボランティア特別公演

落語をより多くの方に楽しんでもらうため、大学周辺の施設(老人ホームや、シニア会など)を中心にボランティア活動として披露しています。披露するのは落語だけでなく漫才やコントもリクエストを頂くので披露させていただいています。

団体紹介

落語研究会は、落語だけでなく、漫才やコント、ピン芸など様々なことをしています。年に4回あるライブで披露するため日々芸を磨いています。

成長した点、やりがい

ボランティア活動を行うことにより、大学以外で落語を全く知らない方々にも披露できるため、毎回新鮮な反応を頂くことができます。笑いのツボも一人ひとりで違うため、普段とは異なる場所でお客さんに対し落語を披露することは、自身の芸の向上に繋がるとも勉強になります。成長したと感じるのは、お客さんに聞かせる為の落語ができるようになったことです。自己満足ではなく、お客さんが楽しむ語り方を考え取り組むようになりました。これは、落語の場面だけではなく、日々の生活や社会でも活かしていける大切なことだと思います。

レスポンス

ボランティア講演後に、落語を聞いて下さった方々から「面白かったよ」「おたまてね」などの言葉を頂きます。施設職員の方々から「好評なのでまたやって欲しいです」と声をかけていただき翌年もボランティア講演をさせていただききっかけになっています。多くの声を身近に聞くことで私たち自身とても嬉しく感じています。

メッセージ

ボランティアに限らず、大家そう、面倒くさそうなど思ってしまう方も少なからずいます。ほんの小さなことでも、誰かが笑顔になったり、お礼の言葉をいただいたり、自分が何かの役に立っていると実感することができました。ボランティアを始めるか悩んでいる方は、ぜひ思い切ってボランティア活動に参加してみてください。

団体アピール

落語研究会では、狂人亭という落語だけのライブを5・9・2月に行っています。また、4・6・11・12月にはお笑いライブを行っています。落語以外にも漫才やコント、ピン芸など様々な内容で開催しています。特に11月の白金祭では、3日間に渡ってライブを行い学外からもたくさんのお客さんに見に来ていただいています。多い日だと200人もお客さんの前でステージに立ちます。練習を重ね、全員で作上げたライブでお客さんを楽しませて頂ける時間はとても達成感があります。ボランティア講演は施設等から依頼を受け行うため不定期で行っています。(大学の休みの時期に多く行っています。)年間通して様々な活動があり充実しています。

2月開催 東伝大賞(学生落語大会)毎年参加しています

成長した点、やりがい

ボランティア活動を行うことにより、大学以外で落語を全く知らない方々にも披露できるため、毎回新鮮な反応を頂くことができます。笑いのツボも一人ひとりで違うため、普段とは異なる場所でお客さんに対し落語を披露することは、自身の芸の向上に繋がるとも勉強になります。成長したと感じるのは、お客さんに聞かせる為の落語ができるようになったことです。自己満足ではなく、お客さんが楽しむ語り方を考え取り組むようになりました。これは、落語の場面だけではなく、日々の生活や社会でも活かしていける大切なことだと思います。

メッセージ

ボランティアに限らず、大家そう、面倒くさそうなど思ってしまう方も少なからずいます。ほんの小さなことでも、誰かが笑顔になったり、お礼の言葉をいただいたり、自分が何かの役に立っていると実感することができました。ボランティアを始めるか悩んでいる方は、ぜひ思い切ってボランティア活動に参加してみてください。

団体アピール

落語研究会では、狂人亭という落語だけのライブを5・9・2月に行っています。また、4・6・11・12月にはお笑いライブを行っています。落語以外にも漫才やコント、ピン芸など様々な内容で開催しています。特に11月の白金祭では、3日間に渡ってライブを行い学外からもたくさんのお客さんに見に来ていただいています。多い日だと200人もお客さんの前でステージに立ちます。練習を重ね、全員で作上げたライブでお客さんを楽しませて頂ける時間はとても達成感があります。ボランティア講演は施設等から依頼を受け行うため不定期で行っています。(大学の休みの時期に多く行っています。)年間通して様々な活動があり充実しています。

2月開催 東伝大賞(学生落語大会)毎年参加しています

● 戸塚まつり準備会

戸塚まつり準備会

「戸塚まつり」基本情報

◇横浜キャンパスで、毎年5月下旬に行う学園祭
 ◇2018年度は記念すべき21回目の開催です！
 ◇地域に深く根付いています！
 毎年、たくさんの地域の方が参加・来場してくださいませ。
 ◇「環境・福祉・国際」の三本柱を掲げて、企画・運営します。
 ◇主な企画は、①模擬店…屋外で食べ物の販売
 ②ステージパフォーマンス…歌やダンスなどの発表
 ③持ち込み企画…屋内での発表や企画
 ④フリーマーケット
 ⑤地域企画…地域の方と準備会が協力して行う企画
 ⑥準備会企画…準備会が行う企画
 ⑦大学企画…大学の職員が関わっています。

準備会員の様子

◇メンバー：2・3年生 23人

◇活動日：決まっていません。
毎年11月頃から少しずつ準備を始めています。

◇魅力：少人数だからこそ、準備会員同士の仲が良い！
お年寄りから子供まで、大学内では関わることのできない地域の方とたくさん触れ合うことができます！
やりがいがある！！当日は達成感がすごいです！！

地域と一緒に創り上げる戸塚まつりは他の学園祭とは一味違う！
実行委員に興味がある人、学部学科を超えて友達を作りたい人、子供が好きな人、
大学で新しいことに挑戦したい人…
私たちと一緒にまつりを作りませんか？

戸塚まつりのボランティアマップ



たくさんの地域の方と
交流できます！

リ・リパックプロジェクト

戸塚まつりは、環境に優しい学園祭を目指して、「リリパック」と呼ばれる、リユース食器を使っています。RRP テントでは、使い終わったお皿は回収をしています。

三本柱企画

環境・福祉・国際

戸塚まつりでは毎年、環境・福祉・国際の本三本柱に沿った企画を行っています。
 ◇2017年度の例◇
 ・環境…リ・リパック
 ・福祉…アイマスク体験 ペットボトルキャップキャン
 ・国際…ベルマークキャンペーン

地域企画

盆 DANCE

近年恒例となっている企画の一つです。大人から子供まで、盆踊りを通して幅広い年代の方の交流の場となっています。もちろん、準備会員も参加します！

戸塚まつり当日以外の 地域の方との交流

5月

下倉田・上倉田の両町内会の方と、戸塚まつり当日の地域企画「盆 DANCE」の事前練習を行います。



地域のお祭りのお誘いをたくさん頂くので、準備会員で参加します。盆踊りを踊ったり、お神輿を担いだりしました。



この他にも、「とつかお結び広場」や、「みなと区民まつり」にボランティアスタッフとして呼んでいただき、運営のお手伝いなどをします。

戸塚まつりを通して成長できたこと・やりがい
 ～戸塚まつり準備会員より～

戸塚まつり準備会は非常に少人数で運営しています。そのため一人一人の任務量や苦労も多ですが、毎、大学生活の中で、信頼できる仲間と丸ごと一つのことをやり遂げるという経験としても貴重なもので、自分の成長や自信につながっていると日々感じています。地域密着型の学園祭であるため、当日以外にも地域の方と触れ合う機会が多くあります。失敗のなように必ず必要なため、自然と礼儀作法が身に付きます。また、時には仲間と意見がぶつかることもあります。地域の方の要望を受け入れられたいこともありますが、準備会全体で協議がからめられ、双方が納得のいくように折り合いをつけることで、予想外の事態が起きても冷静に対処する力が身に付きました。準備期間こそ苦労した分、当日を終えた後の達成感や楽しさです。戸塚まつりを通して、大学生活で何はじめてもなかったような時間を過ごすことができ、信頼できる仲間を見つけたことができました。

● 手話サークルぽっけ



手話サークル ぽっけ



団体紹介

手話サークルぽっけは昔から活動を行なっており、現在は約80人で活動しています。主に手話歌という、歌に手話を合わせて行うパフォーマンスをボランティアで発表させてもらっています！

2017 年度活動記録

- ・ TOKYO みみカレッジ 11 月
- ・ 東戸塚まつり 11 月
- ・ 東京 2020 パラリンピック 1000 日前イベント 12 月

などなどを行いました！





思い・目的

ボランティアを通して、小学生や地域の方に見てもらうことによって手話というものを知ってもらい、興味をもってもらい機会になればいいなと毎回思いながら活動しています。

今後の活動目標

これからは手話歌だけに限らず、他のものも取り入れて手話というものをより広くの方に知ってもらえるように活動を頑張っていこうと思っています！

活動を通して、小学生などの子供に「手話をもっと覚えたい」と言ってもらえたことがあり、そのような風に捉えてもらえると活動してよかったなと思えます。







大学内での活動

毎年戸塚まつり、白金祭で手話歌の発表や手話劇の発表を行なっています。ぜひお越しください！

活動日時：毎週水曜日（放課後 15 時 30 分→）

Twitter: @MGUpokke

● JUNKO Association



JUNKO Association

About activity of JUNKO Association

JUNKO Associationはベトナム・ミャンマーの子どもたちに教育支援を行っています。活動を行うにあたって団体では4つのプロジェクトに分かれて各方面から支援を行っています。

- 
ベトナムプロジェクト
 現地での活動を主とし、ベトナムのリゾート地であるダナンから車で数時間離れた農村地区、山岳地帯などの地域で活動を行う。観光地としても注目されているベトナムであるが、その裏には貧困が隠されている。私たちは子どもたちの視野を広げ、自身自身を客観視することができるよう、文化交流や大学生生活の紹介また創造的な交流を行う。また衛生環境が整っていない地域ではとくに掃除をし、掃除をする意味や清潔を保つ必要性を伝える交流を行っている。
- 
ミャンマープロジェクト
 現地での活動を主とし、ミャンマーの都市であるヤンゴンより車で4時間ほどの地域で活動を行う。発展途上であるため、都市部では大きな建物も建ち始めているミャンマーであるが、貧困もまだまだ隠されている。開墾されたミャンマーという国で新たな世界を知ることができるよう文化交流を主とし、日本の高校生との手紙交換や、指導力を伝える交流を行う。また子どもたちの勉強環境が少しでも整うよう家庭訪問を兼ねた助成金支援などを行っている。
- 
ビジネスプロジェクト
 JUNKO Associationの活動を支える資金獲得を行う。ベトナム・ミャンマーへ足を運び、現地の人が作った雑貨を購入し日本の通販販売系のイベント、高校や大学の文化祭で販売し活動資金を得る。現地の雑貨購入だけでなく、現地の工場とコラボし、学生が考えたオリジナル商品の作成も行っている。また日本ではいくつかのお店に協力していただき定期的に当団体の商品を卸し、販売していただいている。(LASKAさんなど) より多くの人に当団体の商品を手に取ってもらい、少しでも現地の思いが伝わりよう日々活動している。
- 
SRプロジェクト
 JUNKO Associationの活動を支えるため広報活動を行う。現地プロジェクトと共に現地へ赴き活動の様子を写真で撮影。自分たちの手で機関紙やパンフレットを作成し、自分たちの言葉で現地の子どもたちのリアルを伝える。文書上だけでなく、戸塚区内で定期的にイベントを開催し自分たちの口で伝えている。OBOGの方々の支援や戸塚区民の皆様の協力をより多くそして長く得られるよう日々活動している。



JUNKO Associationの活動理念

「世界の恵まれない子どもたちのため」
「学生による創造と実践の場」

これら2つの理念をもとにベトナム・ミャンマーで活動する。世界の恵まれない子どもたちの成長（人間的発達）を願って活動する。また、学生が運営主体となる当法人は、学生の高い志・創造力や行動力を尊重し、活動を通して学生たちの能力や視野を広げることを期待している。

ある一人の女性の想いから JUNKO Associationは成立しました。当時、明治学院大学国際学部の3年生であった高橋淳子さんは、ゼミで東南アジアの経済発展について研究をしていました。ベトナムを訪れた彼女は現地の人々の優しさを感じると共に、途上国という国の貧しさに直面し、「ベトナムの貧しい子どもたちのために何か役に立ちたい」という強い想いを胸に抱固しました。

しかし、その数か月後に不慮の交通事故に遭いこの世を去ることとなってしまいました。彼女の遺志が未永くベトナムの地に残るように、ベトナムの子どもたちの笑顔のためにと、ご両親は淳子さんの積立金や集まった善金を提供し、ゼミの仲間たちは学校内で募金活動を行いました。

これによって、1995年9月にベトナム中部の都市ダナンに近いクワンナム省ティエンフック村の小学校を改築しました。村人は感謝の意を込めて、この小学校を「JUNKO School」と名づけます。

そしてJUNKO Associationの前身が、当時のゼミ生を中心に発足し、明治学院大学の学生を中心に現在まで活動して参りました。

◎ボランティアを通して伝えたいこと◎

NPO法人JUNKO Associationで国際協力ボランティアを始めたら、丸2年が経ちました。ボランティア、国際協力という聞き慣れないけれど、実際に現地へ行って活動してみると、ベトナムやミャンマーの子どもたちに自分が一体何ができるのかと葛藤した時間も多くなりました。

現地にいき子どもたちに会い、活動を行う前は、発展途上国の子どもたちはかわいそうというイメージが拭ききれませんでした。しかし実際には、全くそんなことはありませんでした。子どもたちはいつでも笑顔で目を輝かせ、生き生きとしていました。自分が大きな偏見を持っていたかにショックを受け、自分自身の目で現状を見ることがいかに大切かを実感しました。

ボランティアを通して、取り組む課題全てを解決することはできないでしょう。しかし目の前にある問題に真摯に一步ずつ取り組み、必ずゴールは見えてくるはずですよ。自分ができるところを丁寧に想いを込めて行うことはきっと大きな力になります。ボランティアというと敷居が高く聞こえるかもしれませんが、しかし自分ができることから、ぜひ少しずつ始めてみてください。



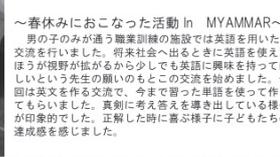
～春休みにおこなった活動 In VIETNAM～

農村地域では子どもたちの印象に残る交流（文化交流）を行うため、今までよりも交流参加の人数を増やして日本式の運動会を行いました。競技内容は綱引きと玉入れに加えベトナムの競技を行いました。子どもたちの家は農具そのもので賑やかに盛り上がり嬉しかったりする姿が印象的でした。景品には戸塚区民の方で作成した折り紙のメダルや駄菓子、ノートなどを渡しました。



～春休みにおこなった活動 In MYANMAR～

男の子のみが通う職業訓練の施設では英語を用いた交流を行いました。将来社会へ出るときに英語を使えるほうが視野が広がるから少しでも英語に興味を持ってほしいという先生の願いのもとこの交流を始めました。今回は英文を書く交流で、今まで習った単語を使って作ってもらいました。真剣に考え答えを導き出している様子が印象的でした。正解した時に喜ぶ様子が子どもたちの達成感を感じました。



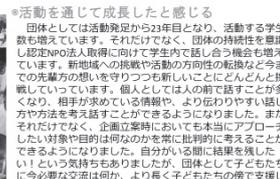
◎ボランティア活動を通じて地域や大学とつながったと感じる

活動を行っていく中で、学生だけでは考えきれない事情が多く、たくさんの方に協力を必要とします。活動の幅を広げるにはより多くの方の協力や支援が必要であり、そのためには当団体のことを知ってもらう必要があります。それにあたり戸塚区にある「ふらつとステーション」さんにご協力いただき定期的にイベントを開催しています。また多くのOBOGの方々に、今なお交流に対してのアドバイスをいただいています。学生だけでなく多くの方の協力のもと私たちの活動は成り立っています。ボランティアを通して得た知識や疑問を大学の学びに生かすことができます。東南アジアに関する講義ではより意欲的に取り組み、新たな知識を得るだけでなくボランティア活動におけるヒントも得ることができています。



◎活動を通じて成長したと感じる

団体としては活動発足から23年目となり、活動する学生数も増えています。それだけでなく、団体の持続性を意識し認定NPOの法人取得に向けて学生内で話し合う機会も増えています。新地域への活動や活動の方向性の転換など今までの先輩方の想いを守りつつも新しいこととどんどんと挑戦して行っています。個人としては人の前で話すことが多くなり、相手が求めている情報や、より伝わりやすい話し方や方法を考え出すことができるようになりました。またそれだけでなく、企画立案時においても本当にアプローチしたい対象や目的は何なのかを常に批判的に考えることができるようになりました。自分がいる間に結果を残したいという気持ちもありましたが、団体として子どもたちに今必要な交流は何か、より長く子どもたちの命を支援していける方法を考えることが大切であるということにも気づきました。



● キャンパスコンシェルジュ



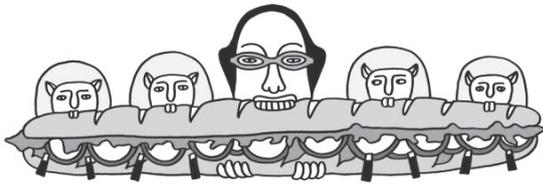
キャンパス コンシェルジュ

Campus Concierge

「全ての明学生により良いキャンパスライフを」
を理念に、
学生による学生のためのサポートチーム
として活動しています。

先輩学生が自らの経験を活かし、
相談に至らない「不安」レベルから、どんな質問にも対応します。
また、学生のニーズに応えるイベントの企画・運営、
大学の各部署との連携も行なっています。

拠点の8号館1階「**コモンズ8**」は、
勉強や話し合いなどに自由に使えるスペース
として解放しています。



私たちが大切にしている3つのこと

高校生・保護者案内

質問対応、式典補助

キャンパスツアー

定例ミーティング

① 受動的活動
質問・相談に応じて
案内をする

② 能動的活動
学生のニーズに
合わせた空間づくり
イベントの企画・運営

③ 意見提供
学生の声を
大学部署に届ける

広報活動

No. _____

大学の各窓口と
学生の架け橋になろう。

2013年に図書館で「アスクカウンター」として始動し早5年、
私たちは前例のない活動に楽しみながら取り組んでいます。組織のあり方について学び、自分自身の能力に気付き、様々な経験を通して組織として、さらに個人として成長してきました。

C a m p u s C o n c i e r g e

基本的に横浜キャンパスが活動拠点ですが、
様々な学部・学科・学年の
キャンパスコンシェルジュがいます。

また、キャンパスツアーや
戸塚まつりでの出店を通し、
地域との繋がりも実感しています。



今後も明学生のため、明学のため、
そして社会のために様々な方法で活動していき、
大学の更なる飛躍と成長を目指し
まい進していきます!!!

興味を持ってくださった方は是非、
コモンズ8におこし下さい。



拠点 8号館1階 コモンズ8

開室時間 平日 9:00~18:30

Twitter @meigaku_CC



Campus Concierge

● ハロプロ研究会

明治学院大学 ハロプロ研究会 (メガハロ)

メガハロ×ボランティア活動

横浜管理課の方より、戸塚まつりのチャリティライブのお手伝いに誘っていただいたことがきっかけで募金活動（ボランティア活動）に参加するようになりました。それからは戸塚まつりのチャリティライブはもちろん、白金祭のトークショーでも募金を集めるようになりました。

チャリティライブやトークショーの入場料を『お気持ち入場料』とし、みなさまから寄せられた入場料を全額、明治学院大学ボランティアセンターに託し、ボランティア活動のために役立てています！！

● 戸塚まつり・・・チャリティライブの開催



TOTSU 凸フェス 2016



TOTSU 凸フェス 2017

● 白金祭・・・ハロプロと関係のあるタレント、モデルなどのトークショーの開催



2017年にはPINK CRES.の夏焼雅さんと有吉反省会でお馴染みの、ばいばいでか美さんが出演していただきました！！

● これから展開してみたいボランティア

- ・ TOTSU 凸フェスの2日間開催
- ・ 白金祭でトークショーとミニライブの開催

来場人数が増加し、より多くの募金が期待できる！

メッセージ

チャリティライブやトークショーのお手伝いは大変なことも多いですが、なかなか体験することはできません。大学生のうちから芸能事務所の方と連絡をとり、アーティストのサポートをするということは自分の経験値をアップさせることもできます。そして、なによりチャリティライブやトークショーに来てくださるお客様が楽しんでもくれること、また SNSなどで「絶対にイベント行きます！」などと言ってもらえることが私たちのボランティア活動の励みにもなっています。また、これらのボランティア活動を行っていなければ横浜学生課やボランティアセンターなどの大学職員の方々と繋がることもなかったかもしれません。ボランティア活動をすることによって、困っている人々を助けるだけでなく、自分の人間関係も視野も広げることが出来るのではないのでしょうか。

● メガハロの日々の活動内容

メガハロでは週に1度昼食会を行っています。(白金・横浜の両キャンパス) 昼食会ではハロプロのDVDを鑑賞したり、話をしたりするなど、ハロプロを通じてみんなで仲良く活動しています。また、メガハロダンス部という活動もあり「踊ってみた動画」をYouTubeにアップしています。メガハロだけで定期的に行われる集まりはもちろん、他大学のハロプロ研究会と仲を深める集まりもあります。同じグループが好きな子同士でライブイベントに参加したり、みんなでハロプロ周りのカラオケをしたりするなど学年分け無く交流を深めています。

活動内容についてもっと知りたい方はメガハロ Twitter をチェックしてみてください！

● 僕らの夏休み Project



僕らの夏休み Project

すべては子どもたちの笑顔のために

僕らの夏休み Project とは、東日本大震災をきっかけに発足した学生主体のボランティア団体です。

関東圏の大学生が夏休み等の長期休暇を利用して被災地を訪れ、子どもたちと長期的にふれあいながら、地域との交流を行っていくプロジェクトです。







～支部ミーティング～

週に一度、横浜キャンパスに明学のメンバーが集まって企画やイベントなどについて話し合いをします。



主な活動

～夏企画～

僕らのメインイベント！子どもたちに最高の夏休みを届けます！
1週間岩手県を訪問し、大学生の考えたレクや実験などを通して、3日間小学生と交流します。最終日は地域のお祭りにも参加しています。







～僕らの総会議～

月に一度、約20大学、350人のメンバー（2018年3月現在）が集まり、より良い活動のために話し合い、メンバーの意識の高めあいをしています。





ボランティア活動をして…

成長した・良かったと感じる点

- ・コミュニティや繋がりが広がったこと
- ・東日本大震災について学べた
- ・自分の意見を伝えられるようになった
- ・他者の意見に耳を傾け、受け入れられるようになった



社会と繋がったと感じる点

- ・活動報告会に来てくれた方々と繋がったと感じる
- ・活動を通して、地域の子もたちだけでなく、大人の方々と繋がった





活動情報



- ★支部ミーティング
場所：横浜キャンパス
時間：毎週月曜日 18時30分～20時30分
- ★夏企画
期間：8月6日(月)～8月12日(日)
- ★活動報告会
日程：9月16日(日)
- ★秋の入会募集
10月から始まります！
- ★連絡先(Twitter)
僕らの夏休み Project 明治学院大学支部アカウント→@MeiBokunatsu
僕らの夏休み Project 全体アカウント→@bokunatsu_pj







設立 20 周年に寄せて

卒業生から

学生メンバーとして、1 Day for Others リーダーとして、ボランティアファンド学生チャレンジ賞受賞団体として、ボランティアセンターとさまざまな関わりがあった卒業生も 10 月 20 日の記念イベントに参加してくださいました。本報告書では 2 名の方からメッセージをいただいております。

学生ボランティアフェストークセッションに参加して

「ボランティアは就活に役立つか」という質問が印象に残った。今の私の回答はイエス。なぜなら、ボランティア活動を通して、さまざまな立場や年齢の人たちと交流することは、キャンパスに留まっているだけではできない経験で、仕事に生かしていると実感しているからだ。また、ボランティア活動をする際、何を求められているのか問いを立て、自分なりの答えを出し、行動する力は、必ず糧になると思う。しかしながら、これは結果論である。加えて、「就活に役立つためのボランティアか」という質問であれば、迷わずノーである。ボランティア活動は、自発的に取り組む社会活動で、見返りを求める行為ではないからだ。学生の頃の私が、「ボランティア」と「就活」を同じ文脈に乗せることも、乗せられることも好まなかったのは、そのような理由だったのだと振り返って思う。

だから、学生の皆さんには将来への希望を胸に、自信を持って、引き続きボランティア活動に励んでほしい。ボランティアセンターには、学生のさまざまな活動に取り組める環境がある。一方で、ボランティア活動の本質を常に考えて、一人でも多くの人の手助けになるような活動をしてほしい。

(2015 年度国際学部国際キャリア学科卒業)

ボランティアセンター 20 周年を迎えて

私は、元々ボランティアというものにまったく興味がなかったのである。たまたま友人に連れられ、説明会に行った際に成り行きで活動に参加することになった。

しかし、今思えばこれが一つのターニングポイントになったのではないかと思う。ボランティアという物はどこか高尚で難しいもの、一部の優秀な人がやるものだと考えていたが、いざ活動してみると今まで私が考えることのなかった国際問題の啓発やどのように組織を盛り上げるかといった 0→1 を作る活動でボランティアに興味がない私でも楽しいと感じられるものだった。それらの活動は「ボランティアをしている」ではなく、「楽しく充実していることをしている」感覚だった。そしてここでの経験は、現在の仕事でも大きく生かされているし、今後もこの経験を生かしていける分野で活躍したいと考えている。

最初はまったく興味のなかったボランティアも、自分なりの視点、自分なりの関わり方で興味があるものになり、将来を決定づけるきっかけともなった。今後も食わず嫌いをするのではなく、自分なりの視点で自分の興味の範疇に持っていき自分の可能性を広げていきたいと思っている。

(2016 年度国際学部国際学科卒業)